

平成27年度 環境教育研修A3  
平成27年7月11日 【場所】春日井市少年自然の家

幼児教育における自然体験教育実践篇 ―保育で使える自然遊びや活動を学ぶ―  
森のようちえん「森のたんけんたい」の公開保育から学ぶ

- 9:00 開会（司会：竹田先生）（挨拶：松岡先生）
- 9:30 森のたんけんたいと合流、移動
- 10:10 森のたんけんたい 朝の会
- 10:25 野外活動
- 11:10 着替え おやつ
- 12:10 質疑応答（桐井先生）
- 12:40 終わりの挨拶（牧原先生）
- 12:50 閉会

【森のたんけんたいの事前説明と合流、移動】

- ・質疑応答で聞かれそうな疑問で委員会が把握している情報を事前に説明。
- ・森のたんけんたいの後ろについて川まで移動。子どものペースで、途中で休憩等を挟みながら進む。
- ・一般の方も利用する施設なので、施設内のルールや他の利用者に迷惑にならないよう子どもたちには指導している。
- ・子どもたちには、トイレがないので一定の場所を決めてそこで用を足すように伝えている。大の場合、常備しているスコップで穴を掘って用を足す。使ったトイレトペーパーは持ち帰っている。



【朝の会】

- ・川辺にシートを敷き、わらべ歌や一緒に歌を歌ったりする（保育者のウクレレ演奏）。
- ・年長と年中。年少の2グループに別れ、歌は一緒に歌い、わらべ歌やお話はシートごとにする。



【野外活動 着替え おやつ】

- ・それぞれに川で虫や魚などを捕まえたり、木に登ったり、おままごとごっこなどを楽しむ。
- ・時間になると子どもたちがベルを鳴らし友達に活動の終わりを知らせる。
- ・シートに戻り、自園の畑で育てたトマトをおやつとしてみんなで食べる。



## 【質疑応答内容】

Q 保育内容も含め、スタッフも園児もゆったりとしていた。スタッフが大きな声で園児をまとめることもなければ、大げさな言い回しで何かを伝える様子も全く見られなかった。何か意図があるのか？

A なるべく自然体でいようと思っている。ただスタッフそれぞれに個性があるのでそれを無理に消してまで保育してほしいとは思っていない。ただ施設内での規則を伝えたり、怪我の恐れ等があったりする場合などの大事な要点だけは強調して伝えている。

Q 小学校に行ったら友達との協調性や授業をきちんと受けていられるのか気になった。

A 集中して話を聞かせる時間を設けたりしている。今のところ弊害はない。

Q 大人のやりたいこと、子どものやりたいことと言っていたがどういうこと？

A 子どものやりたいこと→子どもが自然の中で何かに興味を持ち自主的に遊ぶこと。

大人のやりたいこと→設定保育。制作や、季節ならではの遊び（山桃つみやザリガニ捕り）のこと。

Q では、設定保育をやりたくないという子どもにはどう接しているのか？

A 無理にさせない。子どもの自主性を大事にし、また次にやる機会を持ったたり関心を持たせたりする。だが、スタッフが行う設定保育自体が子どもたちには目新しいものに見えるようで、やりたくないと言う子は少ない。

Q 毎年、その年の園児に合わせて保育内容を設定しているのか？

A この場所、この時季ならではと言う経験があるので、それを軸に活動を設定している。ただ「今年の子どもたちには合わなかった」「次はどうしよう？」などの反省をして次に繋がるよう話し合っている。

Q 他のところで自然環境保育のようなことをしていた子が入園するケースが多いのではないだろうか？

公開保育のときに、子どもにしてみれば大きな階段もあったが歩きなれているように見えた。

A そうではない。保護者が自然環境保育に興味を惹かれ入園させるケースが多い。毎日のように歩いていれば自然と慣れてくるのではないだろうか？

Q 自然環境を嫌がる子どももいるのでは？

A いる。活動に出かけても最初はシートで寝そべってばかりの子も、周りの子どもが楽しそうに活動しているのを見て段々と興味を示し1~2ヶ月もすれば遊びの中に自然と入っている。

Q 特別支援の子は入園させるのか？

A 今年度も若干遅れ気味な子はある。保育の安全を考慮した上で園児数やスタッフの数を考えて調整している。

Q 保護者はどこから情報を得て入園させているのか？

A 最近はインターネットが主流。口コミもあると思う。人工物に囲まれた保育よりも、自然物に囲まれた中で伸び伸びと自主性を育ててほしいと願う保護者が集まるので、保護者どうし自然とも仲がいい。

Q 「自然保育」に対して保護者と園のギャップもあると思うがどうしている？

A 設立当時はスタッフも少なかったため、保育の一部を保護者に手伝ってもらっていた。だが、保護者の数だけ「子どもにあれをやってあげたい」という理想があり、それを保育に組み込んでくる保護者もいた。そのために価値観が合わずに辞めていく園児もいた。現在は園のスタッフが保育をし、行事には保護者が参加するという形にしてそういったトラブルも落ち着いた。

最近も、保護者から「川遊びが心配だから大人の目を増やしてほしい。」との要望があった。スタッフを増やすことも難しいのだが、昔のように保育に保護者を参加させると、どうしても子どもたちが浮ついたり、落ち着かなくなったり、ぐずったりして余計に危なくなる可能性がある。そのことを親に理解してもらうために懇談会を開き園の方針を理解していただけるよう努力している。今回の保護者も懇談会を2回行って理解していただいた。保護者の思いも汲みながら、自分たちのやりたい保育を保護者に伝えている。

Q 入園当初に泣く子はいる？

A いる。他園と違い門や建物といった、子どもと保護者を切り離す物理的な物がないため苦勞する。保護者も自分の子どもが気になり森の入り口で見守ることが多い。その場合は保護者の心配も汲み取りながら帰っていただけよう促している。

Q 自然保育を始めたきっかけは？

A 自主保育会の存在を知り、参加してみたら自分がとても面白く感じた。生き物や植物との出会い、アケビのツルでリースを作ろうと思った時はツル集めに没頭してしまうくらい楽しかった。こんなに自分が楽しいのだから子どもも楽しいに違いないと始めた。

Q 森の中での保育のメリット、デメリットは？

A 自然ならではの多様性は素敵だと思う。年少児が泣くくらい寒い冬には春を待ち望む気持ちが芽生えるし、何より子どもが興味を持つものが沢山ある。興味のある物があればそれを使って（それを捕ろうと）何かし始める。そこから友達を誘ったり、友達が興味を持ったりして関係が自然と生まれるのが良いところだと思う。デメリットは単純に園舎がやはり欲しいと感じるところ。また施設のルールとして学校関係が優先されるので思い通りに予定を組めない。また無認可なので補助が受けられない。

A2 自然が沢山あるから子どもたちも自発的に遊びを見つけて取り組んでいる。小学校に行ってから、どういふうに子どもたちに影響が出るのかは正直分からない。今後、同時に卒園児の経験や他の自然環境保育の様子を調べながらやっていきたい。

A3 子どもの成長にあわせて色々なことができる。普通の園ではどうしてもクラスの全体を見て活動を設定していると思うが、自園では子ども一人一人の成長に合わせて活動することが可能だ。強いてデメリットを言うのなら、本当なら平らな机のできる事なども外でなくてはいけないこと。風で制作が飛んでいたり、斜めなところで色々やったりすることもあるが、それを解決していくことは大事なことだと思う。

Q 無認可の園だと言っていたが、国や市からの補助は？

A 今のところ全くなし。長野では今年度から建物にはなく職員に対しての補助をするというケースもあった。また鳥取では村おこしの一環で村人たちが自然保育を推したので補助がでたというケースがある。

Q スタッフとの打ち合わせや話し合いはどうしているのか？

A 保育終了後に少年自然の家の入り口でしたり、雨の場合や制作物の用意があるときはファミレスで行う。

Q 保育の長期的な見通しはあるのか？

A 年間計画を作成し、月ごとにねらいを設定している。

Q 何日か続けて行いたい制作活動などもあると思うがどうしている？

A スタッフが毎回持ち帰るので、溜まった物が家に溢れて大変だ。

### 【委員長まとめ】

本当にゆっくりとした保育を見られたことで自分の園の保育を振り返ることができた。日本の社会の風潮として、楽をしてはいけない、忙しくしなければならない…といった風潮があり、それは保育業界でも同じだ。だが、保育者は本当にそれでいいのだろうか？

市や国からの補助を受けている私立幼稚園では、補助を受けるために時として本当にしたい保育というものに修正を入れて保育しないといけないときがある。運営資金が少ないことがデメリットと感じられていると思うが、そういった制約がない分、自分たちのやりたい保育することができる強みを大事にしていてもらいたい。